



はばたき



No.122

2013. March

News&Topics

- 剣祭・橘花祭の開催
- 学長杯駅伝

活躍する卒業生

- 看護学部・看護学研究科

研究室訪問

- 国際関係学部
津富ゼミ / 奈倉ゼミ



剣祭・橋花祭を開催しました!!



10月27日・28日に、本学学生のメインイベントである大学祭「剣祭」と「橋花祭」を、静岡県立大学と短期大学部でそれぞれ開催しました。二日目は雨模様となりましたが、ライブや模擬店、参加型イベント、フリーマーケットなど、多彩な内容で大いに盛り上がり、学外からも高校生や地域住民の方々がたくさん来場し、大学祭を満喫していました。

>> 実行委員長からのコメント



第26回剣祭実行委員会委員長
大竹啓斗（薬学部3年）

10月27・28日、地域の和太鼓隊の演奏で開幕した第26回剣祭は、まさに年に1度の盛大なお祭りでした。50を超える模擬店、カラオケワン、オトメンコンテスト、後夜祭には国際関係学部棟に入りきれないほどの人。看護学部棟には、お化け屋敷の長蛇の列。モニュメント下には、各団体のパフォーマンスを楽しむ人。休憩所、模擬授業、フリーマーケットには学内外さまざまな人に足を運んでいただきました。二日目は雨であったにもかかわらず、両日ともに多くの方のご来場、本当にありがとうございました。

今年は新たな取組みも多く、計画段階から壁の多い年でしたので、剣祭を無事に終えることができてほっとしたというのが正直なところです。剣祭は最高の2日間で

した。剣祭実行委員会の皆と、この盛大なお祭りを企画、運営でき、多くの方に楽しんでいただけたことが僕にとっての何よりの幸せです。



橋花祭実行委員長
齋藤史織（看護学科2年）

今年の橋花祭は「Revolution」をテーマに企画してきましたが、私や実行委員だけでは至らない点が多々あり、委員やサークルの部長さん以外にもたくさん人の協力があったからこそ無事に終えることができたと思っています。あいにく二日目は天候に恵まれませんでした。模擬店、学科展示、イベントも成功をおさめ、来場者や学生にも楽しんでもらえて、実行委員としても大きな達成感を味わうことができました。イベントの男装コンテスト、県短アイドル、カラオケ大会、ビンゴは昨年の反省を生かして企画してきましたが、「Revolution」というテーマを掲げた以上、昨年より皆が楽しめるものを目指して企画していましたので、来場者の笑顔を見ることができて本当に胸がいっぱいです。改めましてご協力くださった皆様、そしてご来場くださった皆様、本当にありがとうございました。

2012年経情会 ホームカミングデーの開催



経情会会長を囲んで記念写真

剣祭初日の10月27日に、経情会ホームカミングデーが開催されました。今年もUstreamを使って、当日出席できない人のために、ホームカミングデーの映像を全国に向けて配信し、同時にTwitterやfacebookを利用して、遠方の人とも交流を行いました。

学部3年生の参加者に対して、稲葉会長から就職活動に関するアドバイスがあり、在学生にとっては、人事担当経験者からの貴重な情報を得ることができたようです。

最後に、今後の同窓会のあり方と運営方法について話し合い、今後のホームカミングデーの継続が確認されました。

>> 学生の参加者のコメント

同窓会事務局長
大森祐平（経営情報学部3年）

今年、私は初めて経営情報学部ホームカミングデーに出席し、OBの方々から貴重なお話を聞くことが出来ました。そして今回の会を終え、最も実感したことは、「人脈は武器になる」ということです。実際に人に会うことはもちろんですが、SNSのコミュニティでも積極的に人脈を作ることは出来るのだと学びました。また、今回の会で知り合ったOBの方々も新たな人脈ですから、今後も大切にしたいと思います。

雨の学長杯駅伝 襷つないでキャンパスを疾走



木苗学長のピストルの合図で一斉にスタート!

12月15日、第4回学長杯争奪学内駅伝大会を開

催しました。当日は、あいにくの雨模様となりましたが、23チーム計119名のランナーが大学の敷地内約2.2kmのコースを1チーム5人で駆け抜けました。また、多くの学生・教職員が、応援や大会運営にあたり選手をサポートしました。



>> 優勝チームのコメント

国際関係学部4年 小西里沙

この駅伝大会は、私が1年生の年から開催されたもので、私は学生生活の中の楽しい行事として毎年参加してきました。私はジョグ部として参加していたのですが、部員みんなが一致団結して参加できる大会なので毎年楽しい思い出でいっぱいです。コースが笑っちゃうくらいキツイことや、そのコースを部員みんなでワイワイ言いながら走ったことも、今となってはいい思い出です。1年生で女子区間賞を取って、それ以降毎年獲得することにプレッシャーはありましたが、毎年本番では目一杯楽しく走れたことがよかったです。

私は今年で卒業ですが、この楽しい大会がこれからも続いてくれたらと思います。ありがとうございました。

男子運動部の部(参加: 2チーム)

優勝/ジョグ部男子 46分 44秒

男子一般の部(参加: 7チーム)

優勝/ジョグ部 47分 11秒

男女混合の部(参加: 10チーム)

優勝/陸上サークル 47分 25秒

女子の部(参加: 4チーム)

優勝/ジョグ部女子 56分 00秒

男子区間賞 07分 25秒

女子区間賞 09分 38秒

はばたき寄金からのお知らせ 創造力啓発コンテスト・文芸コンクールの開催



表彰式の後、学長を交えて

剣祭二日目の10月28日に、はばたき寄金主催の創造力啓発コンテストが行われました。今年は新たにアイデアを説明するスピーチも加わり、エントリーした学生は約40人の聴衆を前に、自身のアイデアを熱く発表しました。また、当日は併せて学生文芸コンクールの表彰式が行われました。詩、俳句、ノンフィクション等の文芸と、イラスト部門に加え、今年から新たに写真部門が設けられ、「キャンパスの表情」をテーマに学生から多くの応募がありました。応募総数は112件となり、昨年を大きく上回りました。

第12回創造力啓発コンテスト受賞結果

部門	受賞	所属・名前	作品名
創造力啓発コンテスト	最優秀賞	経営情報学部 山田 剛史	サービス化を目指しているもの「リミナビ」
	優秀賞	経営情報イノベーション研究科 胡 娟	スプーン内蔵調味料容器
	アイデア賞	経営情報学部 先山 晃平	静岡に21世紀型の商業施設を

第16回県大文芸コンクール受賞結果

部門	受賞	所属・名前	作品名
詩	最優秀賞	看護学部 大谷 美緒	cry for the moon
	優秀賞	生活健康科学研究科 和栗 智治	安らぎと痛み
	佳作	食品栄養科学部 篠原 咲都	彼のもの
	努力賞	国際関係学部 伊藤 桃	私はこれを「真実」と呼ぶ
	努力賞	国際関係学部 伊藤 桃	高三の夏
俳句	最優秀賞	看護学部 岩田 彩友美	木犀
	優秀賞	国際関係学部 岡本 智之	二十歳のきらり
	佳作	薬学部 永井 啓裕	秋を感じる
	努力賞	薬学部 望月 由布子	森の小道
	努力賞	薬学部 諸田 有佳	秋の訪れ
ノンフィクション	最優秀賞	薬学部 望月 由布子	森の小道
	優秀賞	看護学部 岩田 彩友美	少女と子宮頸がん
	佳作	看護学部 大谷美緒	陽炎
	努力賞	国際関係学部 伊藤 桃	私の中のスペイン
	努力賞	経営情報学部 山田 脩人	3度目の井川

イラスト	最優秀賞	国際関係学研究科 渡辺 友穂	拡張
	優秀賞	国際関係学部 内山 ももこ	秋
	佳作	薬学部 大川 寛代	春昼
	経営情報学部 都築 奈恵	翔び立つ	
	国際関係学部 村松 沙紀	花	
写真	最優秀賞	薬学部 浅田 純司	期末試験を乗り越え、はるばる北海道2週間の旅!! 持ち物はバイク・テント・熱いハート!!
	優秀賞	生活健康科学研究科 袴田 京	「アキゾラトネル」
	佳作	薬食生命科学総合学部 乾 沙王里	学長杯争奪学内駅伝の後に、至福の豚汁を食べる人
		食品栄養科学部 村田 晴美	[hangover]
		経営情報イノベーション研究科 三津山 雅規	夜の経情棟です。夜の暗さをオレンジの光が、幻想的な雰囲気を作り出します!
努力賞	経営情報学部 金指 玖留美	大講堂の中の階段。紫のけい光灯が階段を幻想的にうつつします。	
	薬学部 大川 寛代	大好きな場所。レンガ色が一瞬、夕日と夜の色に染め上げられて。	
	経営情報イノベーション研究科 横山 航	空の青と県大を象徴する赤レンガのコントラストが綺麗なので、思わず撮りました。	
経営情報学部 赤堀 友里	サークルメンバーで写真を撮りに県大内を散歩中の一コマ。		

>> 剣祭イメージキャラクターが決定



剣祭実行委員会と共催で、剣祭の顔となるキャラクターの募集を行いました。応募は15件でいずれもユニークな力作ぞろい。剣祭来場者の人気投票も加味して審査した結果、薬学部 内田光咲さんの「つるじろう」が採用されました。剣祭のマスコットとして、幅広く愛用されて欲しいですね。

部門	賞	所属・名前	キャラクター名
剣祭キャラクター	最優秀賞	薬学部 内田 光咲	つるじろう
	優秀賞	経営情報イノベーション科 三津山 雅規	つるまつ
	佳作	生活健康科学研究科 澤頭 美緒	はっしんくん
		国際関係学部 池田絵理子	剣さん(けんさん)
		生活健康科学研究科 片野 雄太	つるぎサイ
看護学部 紅林 愛実	ナギーさん		

>> 皆様からの基金へのご協力、御礼申し上げます

今年度も多くの皆様から寄付をいただきましたこと御礼申し上げます。
(敬称略:平成24年1月~平成24年12月分)
小谷野俊夫(退官)、藤井敏(退官)、酒井坦(退官)、伊勢村護(退官)、山田静雄(薬学部)、石川准(国際関係学部)、川島博人(薬学部)、種本浩美(事務局)、中山勉(食品栄養科学部)、若林敬二(環境科学研究所)、上村和秀(薬学部)、野口修治(薬学部)、新井映子(食品栄養科学部)、下位香代子(環境科学研究所) ほか匿名多数

地震と津波への備えを学ぶ グローバル地域センター公開シンポジウム 「TSUMAMI」の開催



関西大学社会安全学部社会安全研究センター河田教授



パネリスト 静岡大学防災総合センター原田准教授とグローバル地域センター小川特任教授

本学附置機関のグローバル地域センターでは、平成24年4月設立後初の主催事業となる公開シンポジウム「TSUMAMI」～世界一安全な『ふじのくに』を創る～を1月30日に開催しました。

基調講演では、関西大学社会安全学部社会安全研究センター長、教授の河田恵昭氏が「南海トラフ巨大地震と津波被害と『強くてしなやかな社会』」と題し、津波対策の方向性などについて講演しました。また、パネルディスカッション「津波対策—静岡モデルの構築を目指して」を行い、小川和久静岡県立大学グローバル地域センター特任教授の問題提起に対して、5名のパネリストによる活発な討論が行われました。

当日は、研究機関関係者、大学関係者、行政機関、一般県民など約400人が参加しました。

「健康長寿社会」と「薬と食の科学の融合」を目指して第17回静岡健康・長寿学術フォーラム、 第1回薬食国際カンファレンスを同時開催



木苗実行委員長(本学学長)による開会挨拶

年齢を重ねても病気になるにくい体でいるために何が必要か。超高齢社会を迎えた日本において、被介護比率を軽減するために、健康で長寿を全うする工夫が求められています。長寿世界一である日本の中で最も「健康寿命」が長い静岡県。本学は、静岡県の教育・研究機関として、社会的課題である「健康長寿社会の構築」実現のため、最新の研究と情報を、地域社会、日本全国、世界に向け発信していきたいと考えています。その取り組みとして、11月に、本学と、静岡大学、浜松医科大学、静岡県の4機関が参加する実行委員会の主催により、「第17回静岡健康・長寿学術フォーラム」を開催しました。今年度の開催は、本学教員が組織委員長を務める「第1回薬食国際カンファレンス」と共催で行い、「健康長寿」と本学の特色である「薬・食」の研究分野が連携した新たなアプローチを見せました。

>> 第17回静岡健康・長寿学術フォーラム



二日目のパネルディスカッション

昨年度、静岡県から本学を含む県内の学術・研究機関が企画・運営を譲り受け、2年目を迎えた今年度のフォーラムは、「超高齢社会を支える健康長寿科学とセ

ルフケア」をテーマに、大学の健康長寿科学の研究成果を、医療福祉の現場と県民のセルフケアに結び付け、活用する方法を、参加者とともに考える場となりました。

初日は基調講演「食品成分によるアルツハイマー病の予防効果」のほか、「機能的食品の臨床応用」「地域住民のセルフケアを支える多職種ケアチームの展望」「在宅医療・介護をどう支えるか」などのセッションが行われました。2日目は、健康長寿科学を医療福祉の実践に活かすため、「在宅での看取り」から、落語を交えた「笑い与健康」まで幅広いテーマで講演・ディスカッションが行われました。

二日間の参加者は、延べ1,842人となり、1日目の学術セッションは、薬食国際カンファレンスとの共催により、海外からも9か国から参加があったほか、若手研究者のポスター発表もあり、会場が満席になるほどの活気に満ちたフォーラムとなりました。

>> 第1回薬食国際カンファレンス



薬食国際カンファレンス パネルディスカッション

駿河湾と富士山を一望できる日本平ホテルで開催されたカンファレンスには、海外12か国と国内から招聘した研究者、本学教員・大学院生らが集い、「薬・食」を基盤としたCenter of Excellence (COE) プロジェクト研究成果の発表と情報交換の場となりました。

パネルディスカッションでは、「薬と食の境界は重なりつつある」というテーマの下、基礎研究から健康科学の実践、薬食研究の展望や国際的な協調などについて、包括的な討議がなされました。

また、大学院生などの若手研究者によるポスター発表では、海外からの参加を含む76題の発表があり、本学の学生も多くの優秀ポスター賞を受賞しました。

国内で初めての薬食に関する国際会議ということで、薬食研究の志向性や斬新な発想も示され、大学院生

にとっては、国内外の著名な研究者との交流により研究意欲を高める好機となりました。

組織委員長である薬学部山田静雄教授は、本カンファレンスの開催について「薬と食の相互作用という社会的に身近な問題だけではなく、薬と食の科学的融合という、新しい健康科学領域が今後大きく発展していくことを、世界に発信できたと自負している。第1回開催の意義は非常に大きい」と、薬食研究領域の重要性を述べ、カンファレンスの継続の可能性を示しました。

第5回排尿障害モデル動物研究会の開催



研究会の様子



教育セミナーで講演される竹中登一氏

薬学部の山田静雄教授が代表世話人を務める「第5回排尿障害モデル動物研究会」が11月30日に開催されました。本研究会は、排尿障害のメカニズムの解明と新規治療薬の開発を目的として平成20年より開催されており、第一線で活躍する泌尿器科臨床医を始めとして、製薬企業、大学などの研究者が参加しました。

高雄長庚紀念醫院(台湾)のYao-Chi Chuang准教授(台湾排尿機能学会長)による特別講演が行われ、下部尿路疾患に対するボツリヌス毒素の効果などについて話しました。教育セミナーでは、アステラス製薬株式会社前会長の竹中登一氏が、排尿障害治療薬開発の経緯や戦略について講演し、「これらの泌尿器系創

薬の世界的成功は、国内のアカデミアでの高水準且つ独創的な研究を基盤とした産学連携の賜物である」と話しました。

一般演題では、大学や企業の研究者から「新たな排尿障害モデルの開発や創薬研究への応用」などの最新の研究成果16件が発表されました。排尿障害の治療研究領域の発展に向けて、活発な議論と意見交換により研究者同士が交流を深めました。来年度の研究会は平成25年9月21日に、第20回日本排尿機能学会(9月18～21日静岡市で開催)とともに開催される予定です。

世界の食と文化が集合! 留学生交流会



参加者全員で集合写真

10月13日、毎年恒例となった留学生交流会を今年も開催しました。会場となった学生ホールには、留学生はじめ日本人学生、教職員など100人を超える参加者が集いました。留学生らが協力して作った自国の料理がふるまわれ、参加者は留学生による歌や踊りなどを楽しみながら交流を深めました。



手作りの水餃子は大好評!

経営情報学部3年 解 開源

今年、私達中国北グループは伝統的な水餃子を作りました。当日チームメンバー達は各自の仕事をしっかりこなしうえで助け合って作業を進めていました。中国の水餃子の用の皮ではなく日本の焼餃子用の皮を使用したところ、予想以上に食感が良くなり、皆さんに好評を頂きました。今回の留学生交流会でチームリーダーを担当させて頂いたことで、今後社会に出てから必要になる

リーダーシップ、コミュニケーション能力を磨くことができ、本当にいい体験になったと思っています。



民族舞踊の練習がとてもハードだった 国際関係学部3年 SU SU SAN

今年、私たちミャンマーチームは、ミャンマーのカレン民族の踊りを披露しました。私たちのチームは、ミャンマー人だけではなく、中国人とマレーシアの留学生も一緒に踊りました。皆が盛り上がるような踊りを選んだのですが、カレン民族の踊りはミャンマー人でもその民族ではないと踊れないほど難しく、とてもハードな踊りのため、練習は思っていたより大変でした。

私たちは、カレン民族の踊りができるミャンマー人がいる学校へ行って踊りを教わり、大学で夜遅くまで一所懸命練習しました。その結果、最高のパフォーマンスができたと思います。

これは、忙しい中、一所懸命練習してくれたメンバーや、協力してくれた皆さんのおかげです。来年の留学生交流会も、今年以上に楽しい交流会になってほしいと思っています。

食品栄養科学部学生がお弁当をプロデュース



開発の中心メンバー森奈津実さん



第1弾のお弁当は女性向きで彩り鮮やか

食品栄養科学部フードマネジメント研究室に所属する学生が考案したお弁当が、11月中旬から静岡県内に展開するスーパーマーケット「しずてつストア」31店舗で販売されました。

『栄養士のたまごがあなたのために作ったお弁当』と銘打

たれたこのお弁当は、管理栄養士を目指す学生たちが、美味しさはもちろんのこと、栄養バランス、季節感や彩り、価格面等にこだわり考案されました。容器やパッケージデザインなども学生のアイデアによるもので、桜えびなどの地元食材も多く使用しコストカット、地産地消を心がけるなど、たくさんのアイデアが詰まっています。

考案メンバーの1人である森奈津実さん（4年生）は、「自分たちの知識を最大限に生かしつつ、それを企業側に理解してもらいながら開発を進めていくことには苦労しましたが、お弁当を食べてくださった多くの方からコメントをいただいたことがとても嬉しく、今後の励みになりました。」と話しました。

同研究室の市川陽子准教授は、「忙しい人こそ食事に気を遣っていただきたい。そんな思いで開発した商品です。売れるために必要な条件が全て満たされなければ、『健康感』を全面に押したところで消費者は手を出してくれません。学生は、販売後も各店舗に盛りつけや陳列をチェックに行くなど、妥協せずに頑張ってくれました。」と学生を称えました。

環境問題の研究・教育を地域へ還元 静岡環境フォーラム21を開催



各研究所が2題ずつ最新研究成果を講演しました(坂田環境科学研究所長の挨拶)



ポスター発表では34題の発表が行われました

11月12日、環境科学研究所・地域環境啓発センターは、環境問題に関する最新研究成果を発表する「静岡環境フォーラム21」を開催しました。本フォーラムは、

同研究所と静岡県環境衛生科学研究所、静岡県工業技術研究所の県内三研究機関の共催で、一般県民の方々を対象に平成9年から毎年開催していますが、今年度は、各研究所における研究活動を再認識し、今後の共同研究への展開を模索することを目的に、最近の研究成果に関する講演とポスター発表による研究所間の交流の形で行いました。

また、今年度新たに、三研究機関の研究活動の地域教育への還元の試みとして、高校生のポスター発表の場を設け、研究教育交流を行いました。発表では活発な議論がなされ、発表後には、高校生と三研究機関職員が研究に関する情報交換等を行い、交流を深めました。参加者からは、今回のフォーラムの形態と試みは好評であり、各研究所所員と高校生からも継続を望む声が多く寄せられました。

富士山の植生を学ぶ野外講義 静大・東海大と連携



天候にも恵まれ富士山麓を散策しました

講師の話熱心に聞く受講生

大学院薬食生命科学総合学府環境科学専攻では、10月11日に、本学と静岡大学・東海大学の3大学の院生が参加する連携講義「富士山から学ぶ森林植生の垂直変異」を開講しました。本講義は、日本の代表的な植生をひとまとまりに見ることができる富士山に実際に赴き、植生帯の変化と森林の特徴を実物と比較・実感しながら、植生に及ぼす富士山特有の要因を探るというもので、現場での観察を通じて、自然の森林の面白さを体感できる内容となっています。

講義では、静岡大学大学院農学研究科の水永博己教授のコーディネートにより、富士山三合目の

ブナ林から五合目の樹木限界と亜高山帯等を巡り、植生の生態を観察しました。参加した学生からは、「自分の専門とは全く異なることを学べる貴重な経験だった」「富士山の森林植生を初めて知り、シカの食害についても考えさせられた」「トウヒの樹齢の数を初めて知り、とても驚いた」などの感想が寄せられ、環境学分野において、体験を通して学ぶことの重要性を感じる野外講義となりました。

同専攻では、このような実践的実習や、地域環境関連施設等の見学や意見交換会、講義などを通して、地域・地球環境問題に関する知識と体験を深めることを目的としたフィールドワーク演習を実施しています。今年度は本講義のほか、日立アプライアンス（株）清水空調本部と（株）富士エコサイクルの視察・意見交換会、駿府城公園堀水の水質・生態系等に関する環境サンプルの採取と現場観察及びその関連講義「駿府用水の流路と管理体制」を実施し、いずれも静岡県の地の利を生かした学びの場となっています。これらの演習は、（社）静岡県産業廃棄物協会、静岡市役所・環境局等の地元の関係機関・企業の支援・協力により行われました。

「みんなでつなぐ元気が出る ドリームサイエンス2012 in Shimizu」の参加

12月1日に「みんなでつなぐ元気が出るドリームサイエンス2012 in Shimizu」が東海大学清水キャンパスで開催されました。会場には約1,500人の参加者が集まり、子どもが楽しめる科学体験の場として、大学や企業など49ブースの出展があり、本学からは、食品栄養科学部が『キイロショウジョウバエのかんさつ』、環境科学研究所地球環境啓発センターが『伝わる振動』というテーマでブースを出展しました。

>> 参加教員のコメント

「伝わる振動」（環境科学研究所 内藤 博敬助教、斎藤 貴江子助教、三宅 祐一助教）

私達のブースでは、共振原理に関する体験・実験・工作を行いました。共振鍋の体験は、子供から大人まで、上手いく人もいかならない人も、楽しんでくれました。メロノームを数台使った共振実験も、お子さんだけでなく、保護者の方々にも不思議に感じてもらえたようです。また、長さの違う3つの振り子工作は、子供達が率先して参加してくれました。私達も、楽しんで参加できた本会でした。



「キイロショウジョウバエのかんさつ」

（食品栄養科学部 小林 公子准教授、萱嶋 泰成助教）

実験動物として知られるキイロショウジョウバエについて、3種類の遺伝子突然変異体を観察し、スケッチして記録してもらいました。これまでは主に小学校低学年の児童を対象とした出展でしたが、今回は中学生・高校生の方にも多く体験してもらいました。参加者には、教科書で知っていたショウジョウバエの突然変異体について、その実物を観察することが出来てよかった、と喜んでいただけました。



**7時間チームワークで走り続ける!
静岡共生共走ハートリレーマラソンに参加**



優勝を収めたジョグ部のメンバー



食品栄養科学部の教員と学生

10月14日、駿府公園で開催された「第6回静岡共生共走ハートリレーマラソン」に、全学部のジョギング好き有志による通称”ジョグ部”と食品栄養科学部教員・学生有志が参加しました。この大会は、午前9時から午後4時までの7時間、駿府公園内にある1周500mの周回歩道を、各チームで襷をつないで走るというもので、障害者と健常者が触れ合い助け合うことを目的として、毎年開催されています。

当日は秋晴れの中、各チーム一丸となって周回数を重ね、楽しみながらチームの結束を深めることが出来ました。また、応援を通じた他の参加者との交流や、車椅子の乗車体験など、非常に貴重で有意義な時間を過ごしました。

最終的な総周回数は、食品栄養科学部が141周、ジョグ部が182周で、ジョグ部が見事優勝を収めました。

平成24年度 実験動物慰霊祭の開催



感謝の言葉を述べる谷田直輝さん

12月15日、平成24年度実験動物慰霊祭が小講堂で執り行われました。本慰霊祭は、研究・教育実習に貢献した実験動物を供養し、動物の霊を慰め鎮魂の場とするとともに、動物に対する感謝の意を表すために、動物実験センター運営委員会により毎年行われているもので、今年は、実験動物を使用して研究や実習を行っている学生、大学院生や教員ら約200名が参列しました。

黙祷と木苗学長の式辞に続き、教職員を代表して薬学部の山口賢彦助教と、学生を代表して山内達基さん(大学院生活健康科学研究科修士課程2年)、谷田直輝さん(薬学部6年)が、実験動物への感謝の言葉を述べました。

看護学部学生が人命救助



学長室で男性と笑顔で対面する前泊さん

看護学部の編入生4年の前泊勝人さんが、2012年の10月中頃、大学付近の路上を通りかかった際、心肺停止状態に陥っていた一般の男性に応急処置を施し、この男性は一命を取り留め、人命救助に貢献しました。22歳で看護

師免許を取得し、看護師として8年の勤務経験を持つ前泊さんは、救急隊が到着するまで、心臓マッサージと自動体外式除細動器(AED)により冷静且つ的確な処置を続け、一緒に救急車に乗り込み、病院まで付き添いました。

男性は2週間後無事に退院し、本学を訪れ前泊さんと再会しました。男性から感謝の言葉を贈られた前泊さんは、元気な姿の男性を前に、笑顔で再会を喜んでいました。

前泊さんは現在、より専門的な知識を身につけるため病理学等を学んでいます。

国際関係学部



津富ゼミ

津富 宏 教授

専門分野:犯罪学/青少年支援

■ゼミは学生がつくるもの。自発性を重んじるオープンなゼミ

少年院の法務教官だった経験から、犯罪社会学などの授業を受け持つ一方、若者の就労支援や社会参画に関する活動に取り組む津富教授。「私自身、教官だった頃は、一人一人の子どもにどうかかわるかに関心が向いていて、まちづくりと聞いてもピンとこなかったが、大学に転職して地域や学生に関わるうちに変わってきました。実際、海外では、多様な市民のつながりを創り出すことによって、犯罪の少ない、他者に寛容なコミュニティをつくるという活動が多くある。」そんな津富教授の研究室には、ゼミ生にとどまらず、社会貢献に意欲のある学生が多く訪れる。教授が立ち上げに協力した社会貢献系のサークルは、環境保護

や児童売春問題、若者の社会参画支援などの団体が10近くにのぼり、今や大学と地域の顔となっている。学生の活動に単位を与えるのではなく、あくまで学生の自主性に任せるのが津富流。「自発的結社が多い社会は強い社会。彼らが社会に出て何かやりたいと思ったとき、市民運動なり自発行動に起こせる人間になってほしい。サークル活動はその原体験です。」現在、新たな団体「静岡2.0」が発足したばかり。震災からの復興に焦点を当て、地域の結びつきを学生と市民がともに考える。「ヨーロッパの広場などの公共空間のように、人のつながりを生む場となれば。」この研究室が、まさに津富教授の言う公共空間のようだ。

学生の声

国際言語文化学科アジア文化コース

佐野 仁美さん(4年)



津富先生の下でなら、詰め込む勉強ではなく、何かおもしろいことができるのではないかと思います。先生はひとことで言うと、フラットな人。学生にも学外の方にも態度が変わりません。そういう誰にでも平等に接してくれるところを信頼しています。若者がまちづくりに参加する方法を研究テーマにしているので、サークルやゼミで得たことを自分の地元に還元したいです。

国際言語文化学科日本文化コース

田野 夏子さん(4年)



津富ゼミは、楽しく居心地が良いだけでなく、学生が試行錯誤することを支援してくれるゼミだと思います。私も、地域住民の方との演劇ワークショップを企画し、地域の方々に楽しんでもらえることができました。多様な人々が同じ場に集まって、共に何かをするということが今後地域で生きていく中で大切だということ学びました。卒業後は、佐野と二人で草薙周辺にて事業を起こしたいと考えています。



奈倉ゼミ

奈倉 京子 講師

専門分野:文化人類学/中国地域研究支援

■文化人類学とは“人を理解する学問” “コミュニケーション能力を磨く学問”

中国の民衆の生活、文化習慣や社会の基層構造を、婚姻・家族、村落、人間関係の構築、教育などを対象に、文化人類学の視点から中国社会を読み解くことを課題とする奈倉ゼミ。奈倉講師によれば、文化人類学とは他国の異文化を学ぶことを通して、“人間の本質・普遍性を探究する学問”だという。「外交問題では、政治上の話と民間レベルで温度差があることも。相手国の一般の人々は本当はどう受け止めているのか、文化背景を知り、相手の立場に立つことで見えてくる。文化人類学には、草の根の視点が重要です。」この考えは、日頃の生活にも生かされる。「家族も友人も恋人も同じです。学生には文化人類学

を通して、コミュニケーション力を身につけて欲しい。考えを言語化させることも心がけています。海外では特にロジカルに話すことが求められますが、日本でも就職活動などで必要ですよ。」取材当日は、ゼミ合同の研究発表会に向けてプレゼンの準備中。資料を全員でチェックしながら意見をぶつけ合っていた。「ふつうこれだけ厳しく言えばお互い気まずくなるけど、ここでそういう心配はありません。ゼミのあとにはみんなでごはんに行ったりします」という学生の言葉に、みんな笑顔で頷いた。ちなみに、ゼミのメンバーは先生も含め全員女性。「恋愛話で盛り上がることもしばしば。でも男子学生は大歓迎です。」

学生の声

国際言語文化学科アジア文化コース

為広 真緒さん(3年)



浙江省に語学研修に行ったのがきっかけで、中国ことが以前よりもっと好きになりました。日本人の中国に対するイメージや偏見は、相手の文化を知らないことが原因だと思うので、私自身が人類学の視点から理解を深め、根拠に基づいて中国の魅力を伝えたいです。将来は、化粧品関係の企業で、日本製品を中国の方々に手にとっていただけるよう、市場開拓のような仕事に就けたらと思っています。

国際言語文化学科アジア文化コース

谷川 奈央子さん(4年)



もともと中国の政治などよりも、少数民族や文化に関心があり、奈倉ゼミに入りました。現在は卒業論文に取り組んでいます。中国社会は9割が漢族と呼ばれる人々で、残り1割が少数民族です。私の研究は、その中の朝鮮族の人々が、漢族中心の社会でどのように生きているのかを、人脈形成や経済的地位の確立といった点から考察しています。

学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



島田市・川根本町 家族と地域の時間づくり推進事業「SLフェスタ」

10月に、島田市と本川根町で開催された「SLフェスタ」に、国際関係学部の学生6名が、イベント運営のボランティアとして参加しました。このイベントは、国土交通省観光庁が推進する休暇取得促進のための「家族の時間づくり事業」の一つとして、島田市が取り組んでいる事業です。本学附置の男女共同参画推進センターが、男女共同参画・ワークライフバランス推進に関する地域貢献活動の一環として、毎年連携協力しています。

堀江貴之(国際関係学部3年)

当日は主な役割として、受付と人員整理を担当しました。この「SLフェスタ」は家族と地域の時間づくり推進事業を目的としているため、小さな子供を連れてご両親、または家族ぐるみで来場して下さる方々がとても多かったです。私が担当した「トランポワーク」というアトラクションは、子供たちだけでなく保護者の方々も一緒に楽しめるブースなのですが、一度に体験できる人数には限りがあったので、自由に走り回る子供たちを落ち着かせて順番を守らせるという作業が一番大変だったと思

います。それでも、体験を終えた子供たちとその保護者の方々に「ありがとうございました」と温かい言葉をかけていただくたびに、大きな喜びとやりがいを感じる事ができました。私だけではなく、会場で働いているスタッフ全員が、子供たちと笑顔で触れ合っている様子が今でも強く印象に残っています。一日という短い期間でのボランティアでしたが、人と接する楽しさと、協働することで得られた一体感と達成感は、とても貴重な体験であったと思います。



草薙くいだおれ祭

1月8日から10日までの三日間にわたり、本学が所在する草薙周辺の飲食店で食べ歩きイベント「草薙くいだおれ祭」が開催されました。本イベントは、経営情報学部の学生で構成される地域コラボプロジェクトが主催しました。

林田里紗乃(経営情報学部2年)

地域活性化を目的として地域住民や飲食店が一体になり開催する飲み歩き・食べ歩きができるイベント「まちバル」として企画された「草薙くいだおれ祭」は、企画から参加店舗との交渉、宣伝、チケット販売、当日の運営まですべて一から学生だけで作り上げました。半年間準備してきたこのイベントは、4枚つづりのチケット約350枚を販売し、当日三日間は草薙のお店に多くの学生や社会人、主婦の方々が訪れました。「あのお店良かったよ」「いろんなお店に行けて楽しかった」などの声を頂き、草薙のお店のファンを増やすきっかけになったのではないかと思います。

大学生がまちバルを企画するというのは今まで前例がない為、自分達で考えて決めなければならないことが多いこと

に最初は戸惑いましたが、別の地域でバルを運営している方とお会いしてアドバイスを頂いたり、草薙の飲食店の店長さんに相談したりしました。このように、いろいろな立場の方に意見をもらえることが大学生である私たちの強みだと思います。草薙くいだおれ祭を通して学んだことは、学生でも地域に影響を与えられるということです。自分達にもできるという想いを忘れずにこれからもいろいろなことにチャレンジしていこうと思います。



前期リーグ順位決定戦

サッカー部 引退式&部員募集中!

伊藤梓(国際関係学部1年)

こんにちは、県立大学サッカー部です!私たちは今年、エコパで行われた前期リーグ順位決定戦に参戦したほか、夏合宿に行ったり、東海リーグ参戦のために愛知県に遠征するなど、1年生から4年生部員全員が総力をかけて活動してきました。

今年度の試合がすべて終わり、12月15日、3年生の引退式が行われました。引退式では、4年生が夏前から製作してくれたDVDが上映されました。3年生の勇姿、合宿の思い出、現役生だけでなくOBOGの方々からのメッセージが収録された、笑いあり涙ありの素晴らしいDVDでした。引退式の2次会はみんなでボウリングに行きました。優勝者にはなんと大きなホワイトタイガーのぬいぐるみが贈呈され、後輩が背負って家に連れ帰りました。

した。私たち後輩は、3年生が就職活動を終えて、再び部へ戻ってきてくれるのを楽しみにしています。

そして、こんな私たちサッカー部は、現在メンバーを大募集しています!特にキーパーをやってくれる方、大歓迎です!来年度こそは、東海リーグに進めるよう日々練習に励んでいるので、私たちと一緒に楽しく頑張っていきたいです。火、水、金曜にグラウンドで待っています!



夏合宿ではBBQもしました

学生の活動の情報発信を 広報誌がお手伝いします。

広報誌「はばたき」では、学生の活動を紹介するコーナー「学生の日々」への投稿を募集しています。サークルのイベント報告や告知、ボランティア体験談など、なんでもOKです。情報を掲載したい方は、広報室までお気軽にお問い合わせください。

広報室

E-mail:koho@u-shizuoka-ken.ac.jp

TEL:054-264-5130

産学官連携

本学が取り組む産学官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

■研究成果報告

「“産・学・民・官”の連携を考えるつどい2012」開催 静岡市との包括連携協定を締結

11月22日、産学官連携による研究成果発表を通じた産学官のマッチングの場である「“産・学・民・官”の連携を考えるつどい2012」を開催しました。8回目となる今年は、静岡市と地域社会の発展や人材育成を目的とした包括連携協定を締結しました。



▲締結書を交わす木苗学長と田辺静岡市長

第1部「静岡県立大学の地域貢献」では、木苗直秀学長、吉林章仁静岡県経済産業部長の挨拶の後、静岡市と本学の包括連携協定締結式を行いました。県内公立大学と県内自治体との間で包括連携協定を締結するのは、本学が初めてとなります。今回の締結は、これまで行ってきた産学官連携、共同公開講座の開催等、教育・研究活動の推進のための協力関係を一層進展させるものです。

締結式では、田辺信宏静岡市長と木苗学長が協定書に署名し、まちづくりや地域防災、医療福祉などの面で相互連携を図っていくことを確認しました。田辺市長からは、学生も地域の住民として期待されていること、知の拠点としての大学への期待が述べられました。

第2部「産学民官連携セミナー」では、山田静雄副学長が本学の産学民官連携活動を紹介します。ハウス食品株式会社お客様生活研究センター所長の高垣敦郎氏を招き、「メーカーが大学へ望む産学連携とは」と題して特別講演を行いました。「ウコンの力」の開発に関わった経験から、商品開発とマーケティングの必要性について語られ、来場者が熱心に聞き入る様子が見られました。

続く第3部の「研究成果発表・交流会」では、全学部の教員や県公設試験研究機関など、計84件のブースが並びました。日頃の研究内容についてのポスター展示及び展示物の説明を通して、研究者と来場者との間で情報交換や共同研究の可能性について語られるなど盛況をみせました。



▲ハウス食品(株)高垣 敦郎氏



◀第3部の交流会会場では活発な意見交換が行われました。

つどいの開催に寄せて

産学官連携推進本部 本部長 山田 静雄

今回のつどいの開催により、産・学・民・官の連携による地域産業・地域社会への本学がなすべき貢献のヒントが得られ、また、本学の研究がさらに推進されるものと思います。第3部には県の主要施策である静岡県新産業集積クラスターの紹介、公設試験研究機関、産業支援団体などにも参加いただき、学内外の多くの関係者に御参加・御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

活躍する卒業生

助産師として
笑顔の子育てに向けて
サポートを。



名前 今本 久美子さん

卒業学部 看護学部
(2001年3月卒業)

勤務先 藤枝市立総合病院

Q1. お仕事の様子を教えてください。

産婦人科病棟で、お母さんと赤ちゃんが一緒にいる幸せを感じることができるようにお手伝いをしています。女性の母になる力、新生児

の生き抜く力を信じて支えることで、母としての人生とその子の人生のスタートがより豊かなものになるようにと力を尽くしています。そのように満たされた親子の傍にいらることができるこの仕事に幸せを感じます。

Q2. 大学生活で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは?

大学時代はひたすら学部での勉強・実習を一生懸命やっていました。看護職としての考え方はここで身につけたものではないかと思えます。また、出会った友人と過ごす時間は勉強・実習をやり遂げていくために必要でした。今でも大切な支えとなっています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは?

近いということが県大を選んだ最大の理由でした。しかし、今改めて考えてみると、比較的少人数で演習・実習の指導を受けることができていたのだと思います。そして、地元ということは卒業後も公開講座やセミナーに参加しやすいというメリットがありました。

Q4. 今後の目標を教えてください。

私の住むところが子育てしやすい地域になるために何かしたいと思っています。まずは、私たちのところで出産する親子が笑顔で退院できるように病棟の仲間とともに努力していきます。その結果、選ばれる病院となり、私たちの思いが少しずつでも広がっていくことを目指したいです。

Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

就職して知ったのですが、学ぶことに専念できる環境は恵まれた時間です。今を大事に過ごしていくことが将来に繋がっていくのではないかと思います。



「どんな研究テーマでも一緒に」
先生の言葉に
勇気づけられました。



名前 三浦 智美さん

修了課程 看護学研究科
(2007年3月卒業)

勤務先 静岡赤十字病院

Q1. お仕事の様子を教えてください。

救命救急センター病棟に勤務しています。看護係長・教育委員として病棟運営や病院内の研修企画・運営、研究活動の推進に携わるとともに救護班のメンバーとして活動しています。看護を通じて患者さんと家族と癒し・

癒される関係を築けていけることにやりがいを感じます。

Q2. 大学生活で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは?

研究テーマがなかなか決まらず、研究活動をしている自分の姿が予想もできなかった時に教授が「どんなテーマでも一緒に震えてやる」と言ってくれて勇気が出ました。苦勞しても学ぶ楽しさがある、そして共に学ぶという姿勢でいることの力を大学院で経験しました。それは現在の仕事に活かされています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは?

魅力ある先生と友人達に出会えたことです。これは一生ものです。また、大学周囲の環境も静かで自然もあり、行き詰った時にはウォーキングをしたり美術館に行ったりしてリフレッシュできました。

Q4. 今後の目標を教えてください。

現在は研究活動の推進をしていくという役割の中で指導が優勢です。今後は一緒に研究ができるように活動をしていきたいです。そして、日々楽しく元気に看護師として患者さん

や家族、病院スタッフと関わっていくことは永遠のテーマです。

Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

社会人を経験して大学院に入りました。久しぶりの学生生活は今となっては全て楽しい思い出です。ゼミやレポートや実習などで苦勞もありますが、それも得がたい経験。苦樂を共にした友人も先生も互いの糧になっていくのですからよく学び、よく遊び、人との出会いを楽しみながら学生生活を謳歌してください。



受賞一覧

*各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

教員



◆第17回韓国排尿機能学会表彰 薬学部 山田 静雄 教授

薬学部の山田静雄教授が、第17回韓国排尿機能学会において、「排尿障害治療薬の基礎的研究への貢献」に対する表彰を受けるとともに感謝状を贈呈されました。これは、当学会が、排尿機能に関する優れた学術研究業績を挙げた研究者に対し表彰するものです。



◆第56回生活と環境全国大会式典 環境大臣表彰 環境科学研究所 岩堀 恵祐 教授

環境科学研究所岩堀恵祐教授が、「第56回生活と環境全国大会式典」において、長年にわたる廃棄物・浄化槽分野の研究開発での功績に対し、環境大臣から表彰されました。「生活と環境全国大会」は、環境、廃棄物・リサイクル、生活衛生の分野で、様々な活動に携わる行政、研究者、技術者、市民団体等の関係者が参集し、顕彰と情報交換を通じて、環境保全の普及啓発を行うことを目的とした大会です。



◆2012年度日本ペプチド学会奨励賞 薬学部 尾上 誠良 准教授

薬学部 薬物動態学分野の尾上誠良 准教授が、2012年度日本ペプチド学会奨励賞を受賞しました。この賞は、わが国におけるペプチド研究分野において卓抜な功績を挙げ、将来の活躍が期待される研究者に授与されるものです。受賞研究テーマは、「生理活性ペプチドの高機能性誘導体設計と動態制御学的研究」で、生理活性ペプチドの医薬応用を目的として様々な機能性誘導体を開発し、さらにペプチドの体内動態を改善して副作用を回避する新投与形態を設計し、その成果を学術論文や特許として公表してきました。本研究成果は、治療アドヒアランスの高いペプチド医薬品創製に寄与するものと期待されます。



◆O-CHAパイオニア賞(学術研究大賞) 薬学部 鈴木 隆 教授

薬学部生化学分野の鈴木隆教授が、公益財団法人世界緑茶協会の平成24年度O-CHAパイオニア賞(学術研究大賞)を受賞されました。この賞は、茶に係わる優れた学術研究や緑茶の振興、発展に寄与した産業技術や、緑茶のある豊かな生活文化の提案や消費拡大等の優れた成果を顕彰するものです。受賞研究テーマは「緑茶成分の抗ウイルス作用に関する研究」で、インフルエンザウイルスなどの感染を阻害する緑茶成分を探索し、企業との共同研究により、乾燥茶葉中の抗アレルギー成分ストリクチニンに、インフルエンザウイルスの増殖を強力に阻害する作用があることを見出したことが、高く評価されました。



◆第6回塙保己一賞大賞 国際関係学部 石川 准 教授

国際関係学部 石川准 教授が、第6回塙保己一賞・大賞を受賞しました。塙保己一賞は、江戸時代の国学者 塙保己一(はなわ ほきいち)にちなみ埼玉県が創設したもので、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をされている方々に贈られます。



◆アステラス製薬 生命有機化学賞 薬学部 菅 敏幸 教授

薬学部医薬品製造化学分野の菅敏幸 教授が、有機合成化学協会2012年度アステラス製薬・生命有機化学賞を受賞しました。この賞は、有機合成学に基礎をおき、新規性と独創的応用性に富んだ単位反応や合成法開発を通じて、天然物や生理活性物質、医薬品合成に関連した技術・産業に寄与する独創的かつ優れた研究業績を挙げた、年齢40歳から55歳までの研究者個人に授与されるものです。

学生



◆日本食品科学工学会第59回大会若手の会 企業賞 生活健康科学研究科 博士前期課程2年 西澤 正人 さん

日本食品科学工学会第59回大会若手の会において、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻食品分析化学研究室修士2年の西澤正人さんが、優秀な発表を行った若手研究者に贈られる企業賞を受賞しました。
演題:「NMRによる茶カテキンと胆汁酸ミセルとの相互作用解析」



◆環境科学会2012年会ポスター年会最優秀発表賞 生活健康科学研究科 博士前期課程2年 今井 佑 さん

生活健康科学研究科博士前期課程2年の今井佑さんが、環境科学会2012年会において、最も優秀な発表を行った若手研究者・学生等(満35歳未満)に贈られるポスター年会最優秀発表賞「富士電機賞」を受賞しました。
演題:「リチウム同位体比を指標とした大気エアロゾルの発生源推定法の検討」



◆第10回若手の力フォーラム 糖鎖科学中部拠点奨励賞 薬食生命科学総合学府 博士後期課程1年 坪井 康一郎 さん

本学で開催された糖鎖科学中部拠点「第10回若手の力フォーラム」において、薬食生命科学総合学府免疫微生物学講座 博士後期課程1年生の坪井康一郎さんが、糖鎖科学中部拠点奨励賞を受賞しました。この研究成果は、ヘパラン硫酸をターゲットとした新しい免疫制御法の開発につながる事が期待されます。
演題:「リンパ球ホーミングにおける高内皮細動脈ヘパラン硫酸の機能解析」

受賞一覧

*各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

学生



◆第29回有機合成化学セミナーポスター賞 薬学研究科 博士後期課程3年 吉田 篤史 さん

第29回有機合成化学セミナーにおいて、薬学研究科 医薬品製造化学教室博士後期課程3年吉田篤史さんがポスター賞を受賞しました。本会は有機合成化学協会主催の、大学、民間企業から注目を浴びるセミナーです。
演題:「レモノマイシンの全合成」



◆第17回日本フードファクター学会(JSOFF)学術集会・日本カテキン学会総会合同大会2012 Young Investigator Award(YIA)受賞

生活健康科学研究科 博士後期課程2年 山崎 隼輔 さん

生活健康科学研究科環境物質科学専攻博士後期課程2年の山崎隼輔さんが、第17回日本フードファクター学会(JSOFF)学術集会・日本カテキン学会総会合同大会2012において、Young Investigator Award(YIA)を受賞しました。この賞は、35歳未満の若手研究者・学生の中から、口頭発表とポスター発表を合わせた総合評価により選考されるものです。
演題:「フラボノイド類はストレスによる乳がん増加を抑制できるのか?—カテコールアミン作用の視点からの検討—」



◆クロマトグラフィー科学会議 学生ポスター賞

薬学部6年 望月 由布子 さん 薬食生命科学総合学府 博士前期課程1年 中根 敦子 さん

生体機能分子分析学分野所属の薬学科6年生の望月由布子さん、大学院薬食生命科学総合学府博士前期課程1年の中根敦子さんが、第23回クロマトグラフィー科学会議において、学生ポスター賞を受賞しました。この賞は、学生による優秀なポスター発表に対して授与されるものです。
題名:「臭素原子を導入した高い同定能力を有するLC-MS/MS用誘導体化試薬の開発」(望月さん)
「高温逆相HPLCによる抗体医薬品の分離挙動解析」(中根さん)

◆第5回Webとデータベースに関するフォーラム 各賞 経営情報イノベーション研究科 大学院生ら3名

2012年11月に開催された「第5回Webとデータベースに関するフォーラム」において、経営情報イノベーション研究科の大学院生ら3名が、受賞しました。

➤第5回Webとデータベースに関するフォーラム 学生奨励賞

経営情報イノベーション研究科 博士後期課程2年 伏見 卓恭 さん

論文集:「個々のノードの視点に基づく機能コミュニティ抽出法」

➤学生奨励賞 経営情報イノベーション研究科修士課程2年 小出 明弘 さん

論文集:「デンドログラムを用いた震災時におけるMention・Hashtagツイートの利用傾向分析」

➤リクルートテクノロジーズ賞(企業賞) 経営情報イノベーション研究科修士課程1年 山岸 祐己 さん

論文集:「オンラインレビューサイトにおけるレビュー変化点検出法」



◆第16回生体触媒化学シンポジウム 優秀研究発表賞 薬学部4年 神谷 真鈴 さん

薬学部薬科学科4年の神谷真鈴さんが、第16回生体触媒化学シンポジウム(生体触媒化学研究会主催)において、優秀なポスター発表に贈られる優秀研究発表賞を受賞しました。今回の受賞は、新学術領域研究「反応集積化の合成化学:革新的手法の開拓と有機物質創成への展開」(代表:吉田潤一)のプロジェクト研究の成果です。
演題:「リパーゼ触媒による光学分割を鍵とするhimbacineの不斉合成研究」



◆平成24年度日本食品科学工学会中部支部大会 優秀賞

薬食生命科学総合学府 博士前期課程1年 久保田 通代 さん

平成24年度日本食品科学工学会中部支部大会において、薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻食品分析化学研究室博士前期課程1年の久保田通代さんが、一般講演者の中から優秀な口頭発表を行った若手研究者に贈られる優秀賞を受賞しました。
演題:「リュウキュウバライチゴ(Rubus croceacanthus)の成分分析およびメラニン生成抑制活性」

団体



◆公益財団法人かめのり財団 第6回「かめのり賞」 大学公認サークル静岡学生 NGO あおい

大学公認サークルのNGOあおいが、公益財団法人かめのり財団より、日本とアジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している団体に贈られる「かめのり賞」を授与されました。
NGOあおいでは、2012年8月からカンボジアのNGO「Children's Committee(CC)」とともに、カンボジアのカンボト州バットンプリン村で「児童買春問題認知向上プロジェクト2012-2014」を実施しています。このプロジェクトは、児童買春の被害が出る可能性がある村で、子どもたちを児童労働や性的搾取から守るため必要な「子どもの権利」について、NGOあおいと、カンボジアNGOのCC、ノートン大学の学生らがレクチャーをしながら、村の大人と子どもたちと一緒に「子どもの権利」や児童買春について考えるものです。これらの草の根に根差した活動が評価され今回の受賞に結びつきました。
静岡学生NGOあおいホームページ <http://ngo-aoi.jimdo.com/>

教員人事

◆異動(部局長等任命) 平成24年10月1日付

斉藤 和巳	経営情報学部	副学部長	平成24年10月1日～平成25年3月31日
-------	--------	------	-----------------------

平成24年12月1日付

松浦 博	大学院経営情報イノベーション研究科	研究科長	平成24年12月1日～平成25年3月31日
------	-------------------	------	-----------------------

教員著書紹介



近世語推量表現の研究

鶴橋俊宏 著(短期大学部教授 <専門分野: 国語学>)

清文堂出版 / 2013年1月20日 刊
定価(税別): 11,600円
ISBN978-4-7924-0977-7 C3081

本書は、洒落本、滑稽本、人情本などの江戸文芸から用例をとり、咄本、歌舞伎などのジャンルと比較しながら、推量表現を通時的に考察し、常体における江戸語の推量表現の全体像を明らかにした一冊。推量表現のひとつである“ノダロウ”の初出例を発見し、“ダロウ・ノダロウ”の実態を初めて明らかにした。また、近世駿河方言の資料とその言語についても述べ、地方語と江戸語の推量表現の対照に加え、語彙の収集や音韻現象の検証も行っている。

広報誌はばたきへのご感想をお寄せください

「広報はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。また、ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

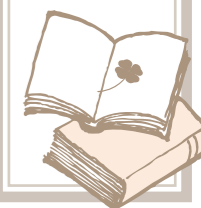
お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

2月23日は「富士山の日」です

富士山について、学び、考え、想いを寄せよう。



図書館だより



- Web of Science
- Science Direct



- 医中誌
- JapanKnowledge
- SciFinder Scholar

十二月に、出版社等の外部講師を招いてデータベース活用講座を行いました。自発的な申込みのほか、学内教職員の協力により多くの参加者を集めることができました。五タイトルのデータベース活用講座各二回計十回の開催で、受講者総数は延百三十二人でした。いずれの講座においても、受講者は講師の要領を得た説明を受けながら手元のPC操作に余念がない様子でした。受講後の感想やアンケート回答集計結果等を参考にニーズを反映させて、次回の内容にしていきたいと思えます。

11月に専門講師を招いて5タイトルのデータベース活用講座を開催しました。

食品栄養科学専攻 三好一史
修士では英語論文などを読む機会が格段に増えたため、効率的な論文検索の方法を習得したいと思っていました。そんな折、担当教員の勧めで、「Science Direct」と「SciFinder Scholar」による論文検索スキルアップ講座に参加しました。どちらも英語のサイトのため、詳しい使い方の習得は敬遠していましたが、専門講師による直接指導と詳細な配布資料により十分に理解できました。この講座は今後の研究に大いにプラスになると思います。

講座に参加して



食品栄養科学専攻 谷澤允哉
これまで、「SciFinder Scholar」は単に論文を調べるという程度だったので、このサイトを活用する講座に参加しました。本講座では、論文検索をはじめ、化学構造式や化学反応式による検索方法や、検索結果の絞込みなどといった高度で効率的な検索の方法を習得することができました。今後は、この講座で習得したスキルを論文作成に上手く活用したいと思います。

二十世紀はアメリカの世紀でした。このアメリカの繁栄を支えた成功者に、鉄鋼王アンドリュー・カーネギーや石油王ジョン・ロックフェラーなどがいます。アルバイト記者であったナポレオン・ヒルが、カーネギーに依頼され、五百人の「成功者」を二十一年にわたって無報酬で調査した結果をまとめたのが本書です。成功し物心両面で裕福になるための方法が十八章にまとめられていて、七十五年にわたって読み継がれています。このカーネギーとの出会いのチャンスを活かしてナポレオン・ヒル自身も成功哲学の第一人者として「成功者」の仲間入りを果たしました。

本書のエッセンスは、人間の思考は偉大であり、たいへんな力を持つ、力を発揮させるにはいかに潜在意識をコントロールするかが重要である、およびすべての人にはこの能力が備わっている、この三点につきると思います。何を、いつまでに成し遂げたいかを明確にし、否定的な思いに打ち勝ち、努力を続けることで、成功を得ること

シリーズ 私の1冊の本



食品栄養科学部教授 渡辺 達夫

紹介図書 『思考は現実化する』
著者名: ナポレオン・ヒル 著/田中孝頭 訳
● 出版社: きこ書房
● ISBN: 9784877710514 (新装版)
● 図書館所蔵: 閲覧室 1階
● 請求記号: 159/H58

とができるというものです。人は否定的な思いになりがちです。人間の思念は力を持つために、否定的な思念を持つと否定的な結果を招くことになり。大恐慌時代のルーズベルト大統領の補佐官としてもヒルは活躍し、大統領演説の草稿をたくさん書きましたが、「恐れるべきは、恐怖そのものである。」という有名な演説に、このことが明確に示されています。

また、「プラスアルファ(+)の魔法」もポイントの一つでしょう。ヒルの調査の結果、報酬以上の仕事をする人は、そうでない人よりも、後に高い地位につき、高い報酬を得ることが判明しました。期待されているよりも余計に仕事をすることによって、ちよとした感動が生まれます。これが大きな成功を生む種となります。さらに、失敗に対する態度も大事で、「三度失敗してもあきらめないなら指導者になれる可能性があり、十回以上失敗しても努力を続けられれば心に天才が芽生えている。」と、あります。大事な心構えであると思えます。

筆者は、二十世紀は日本の時代であると信じているもの一人です。農耕民族であったためか、日本人は、横並びを好み、成功者を嫉妬するカルチャーを持っていません。成功者を嫉妬する限り自らが成功者になることはできません。本書を熟読され、成功者をたたえながら、自らも立派な成功者になる方がどんどん出てくることを期待しています。

駿河路ようかん

静岡の特産品からはじまる物語

静岡産茶葉
有東木産わさび
由比産桜えび
駿河湾深層水塩
伊豆産だいたい
静岡産さつまいも
伊豆産桜葉

**静岡県立大学
木苗学長のアイデア。**

静岡を旅して出会える
特産品をひとつち羊かんに練り込みました。



小売価格 税込 680円

販売元 有限会社 望月茶飴本舗
〒420-0003 静岡市葵区片羽町 62
☎ 054-254-8088
FAX 054-252-8088

取扱店 静岡県立大学 売店
静岡駅バルシェ1F
食彩館「静岡やぶきた羊かん」
富士サービスエリア上り
新東名 静岡サービスエリア上下
新東名 沼津サービスエリア上下

「年に一度は、人間ドック」

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
保健事業部

- 人間ドック
- PET 健診・MRI 健診
- 各種健康診断
- 出張健診
- フォローアップ
- 労働衛生管理
- メンタルヘルスケア
- その他（産業医など）

浜松



聖隷健康診断センター
〒430-0906
浜松市中区住吉2丁目 35-8

静岡



聖隷予防検診診断センター
〒433-8558
浜松市北区三方原町 3453-1

静岡



聖隷健康サポートセンター Shizuoka
〒422-8006
静岡市駿河区曲金 6 丁目
8 番 5-2 号

ご予約・お問い合わせ先



0120-938-375



0120-283-170

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。